

花
枝



風のそよぎ山けきさくそ飛ん
こ襖うこのぶよお志り能山
こえや湖と波寺なり免おく
つた波や志賀のみやえ能必を
とめてるなる乃やささく
つらになまきやらかなぶがも
るまきの残るそせ 山路り

日昔ぬ熊歩牧笛乃あぶ人百葉事
換く能世をわつわり方乃百換
物ちとにまんまは服の前光能
うけをや婚ふくせ 能よ山を
とをまむる雲又池を立へぬえ
入はるまじもさくかな欠慌く
谷乃川音雨とのみやえそ松の

言

どまよきをけりきよやとせ哉

引大さくの意きみ体むのいほ

伝ハ面目な幾よふふふ那

はまきり歌乃しもくぞれま

舞ふゆりのたのうきくをわひて

舞乃陰よ感ひき海をくよもみ

き乃よおよせぬ少ふりひなを

ゆり一妙く屋と宿さる

ふなまきりなをもしう屋下を飛

なとるなをもつや一むなもと乃故

人乃をまきりあまきりあわらわ

やき一も古哥の多と人の

心なもきりう方乃を返りたるわ

古哥のたとしきや魂も

志修のついでやとがたに
しきりくまへる志賀乃みゆら
り山の山色さまいかなんじ
くはな成なる乃兼子りき月に
初るたよはり何乃調子
後里くは舞哥の静さるある

一六九 一 下二三

後

なましく 音郎 ちをいそひ
袖をうきまき花のあきさ
志賀乃山ざらも回一葉園乃
里もつるめくを江の海に志賀
幸崎の松風まきもる静乃表此
子とくさる海さるいづら
甘く小笠山 へぬ勢乃冬

